

## ■甲状腺がんの手術をして 大越良二さん (福島市)

(1月20日福島県への「被曝と帰還の強制反対署名」提出行動での発言から)

12月1日に甲状腺がんの摘出手術を受けました。10ミリの大きさのがんが成人男性で見つかったのはまだそうです。普通の大人はがんが大きくなるまで検診は受けない。私もふくしま共同診療所で受けてみて初めて分かった。手術は4時間もかかった。

今、どこの学校に甲状腺がんの子が何人いるか把握していますか? [→県側「把握していない」]。それでどういう対応ができるんですか。子どものいじめと差別の問題が、横浜で公になりました。甲状腺がんになった子どもがどれだけ学校で差別されているか、分かっていますか。福島は合唱王国だが、手術した子は合唱をやめているはず。ずっとがんの転移・再発を疑っていかなければならない。何人、再発しているんですか、分かっていますか。福島の県民健康調査検討委員会は、何人再発しているか、数を出さない。子どもたちは今後何十年も、再発の恐れをかかえて生きていくことになる。

診断を受けると県の医師は「それは放射線のせいじゃないです」って言う。だけど、私の生活環境を一言も聞いたことがない。それでなぜ「放射能の影響ではない」って言えるのか。甲状腺の検査・調査をやめるというのは絶対おかしいですよ。



## ■労働者は被曝労働反対で闘おう 佐藤賢一さん (江戸川区職労)

政府は福島で避難指示を次々と解除し、3月には「自主避難者」への住宅補助を打ち切ろうとしています。東京都内の避難先には、東京都職員と福島県職員が訪問し、帰還を強制してきました。避難者は被害者です。加害者は東電と原発を推進してきた国です。命、健康、安全、生活を守る立場から、避難者の追い出しには反対しましょう。

帰還を決めた福島の自治体では、役場の職員が真っ先に戻されています。JR、郵便局、病院、水道、NTT、これらの労働者がみんな被曝します。動労水戸をはじめとする動労総連合のJR労働者は、被曝労働反対・帰還強制反対を掲げてストライキをしています。自分たちが健康に生きるため、地域住民が安全であるため、公務員労働者が韓国のように最先頭で立ち上がりましょう。

東京オリンピックは、労働者と東京都民に被曝をもらたすもので、絶対反対です。東京の8000ベクレル/kg以下の焼却灰は、東京湾の中央防波堤に埋められています。事実上の最終処分場です。そのすぐ隣をオリンピックのボート会場にする計画で工事が始まっています。葛西臨界公園のカヌー会場予定地の付近では、10キログラム当たり1万6000ベクレルという数字が出ています。工事関係者も自治体労働者もみな被曝してしまいます。すべての東京都の労働者が被曝労働反対で立ち上がる時です。

すべての原発はすぐなくそう!全国会議 = NAZEN東京は、2011年3.11以降、デモや集会、労働組合での被曝労働拒否闘争、ふくしま共同診療所建設、福島の親子の保養(北富士・杉並)等、さまざまな形で反原発運動に取り組んできました。「過激派」キャンペーンでイジメられることの多いNAZENですが(笑)実際は大まじめに地道に活動しています。私たちの蓄積を共有しながらも、一方的な主張の押し付けではなく、学び合い、共に実践する運動づくりを目指します。

■会場アクセス■  
座・高円寺  
JR総武・中央線  
「高円寺」北口5分

〒166-0002  
杉並区高円寺北2-1-2  
TEL: 03-3223-7500  
<http://za-koenji.jp/>

